Dr.板東のメディカルリサーチ No.141

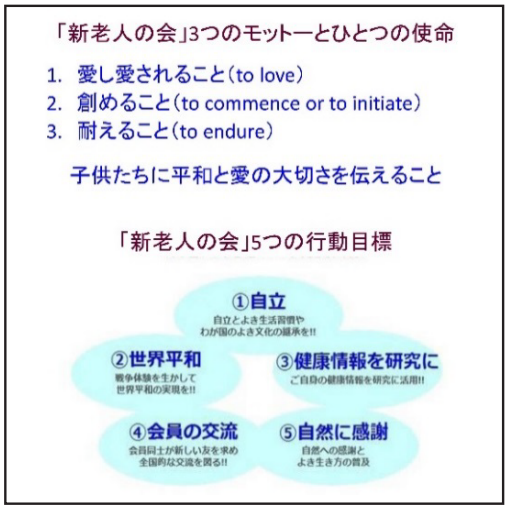
〈新老人 哲学継承 日野原氏〉

◆医学と医療のカリスマ

恩師である105歳の現役医師・日野原重明先生が旅立たれた。長年にわたり活躍されてこられた方である。わが国の医療に対する貢献は極めて大きく、誰もが知っているキーワードとして、プライマリ・ケア、音楽療法、生活習慣病などが挙げられよう。路加（せいるか）国際病院で診療および教育に携われ、日本の医学・医療界のカリスマといっても過言ではない。

氏は、ライフワークとして「新老人運動」(New Elderly Movement)を提唱されていた。「新老人の会」を2000年秋に設立し、21世紀(2001～2100)に向け、意義深いメッセージを発信し、幅広く活動を続けて来られた（表を参照）。先日のテレビ番組では、日野原先生の追悼特別番組が放映されていた。

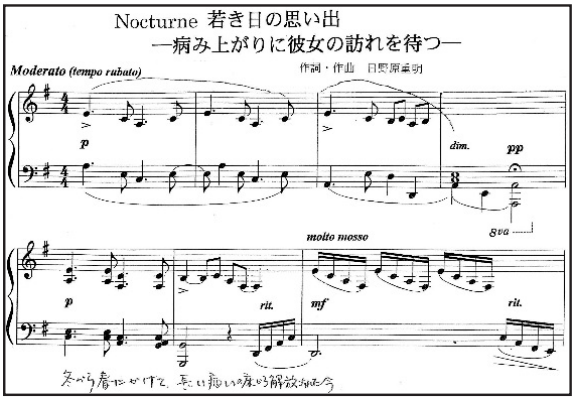
徳島支部は2010年に発足、いろいろな文化活動を継続中。日野原先生が、98、100、102、104歳のとき、４回来徳くださった。昨年1月には、湯川れい子先生と共に音楽の素晴らしさ、音楽療法の魅力を心あつく発信してくださった。



◆音楽および哲学も超一流

医学関係の業績は広く知られており、ここでは他の領域に触れたい。実は日野原先生は音楽家で、指揮をしてピアノを弾き、作曲もされる。2014年1月には、日野原重明作詞・作曲のノクターンが、徳島で本邦初公開。ピアノは筆者が、朗読は四国放送アナウンサーとして有名な武知邦明さんと音楽療法士の吉岡明代氏が担当した。

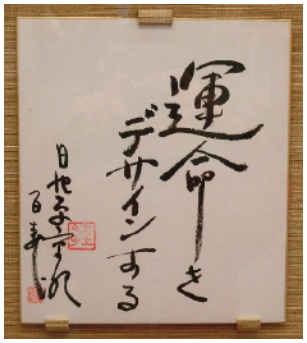
また先生は日本バイオミュージック学会、日本音楽療法学会の理事長として、わが国の音楽療法をサポートし育ててくださった恩人でもある。先生自身が書き下ろした脚本でミュージカル『葉っぱのフレディ』のニューヨーク公演も大成功を収めた。四季の移ろいの中で変化する葉っぱの姿は、人間の一生そのものである。いのちは、巡るという根源的なテーマが描かれている。



◆日野原イズムの継承

文化勲章も受章された日野原先生の哲学は、とても広くて深い。数百冊に至る先生の著書や句集を拝読し、徳島における書道展で目の当たりにした自筆の書「運命をデザインする」をみながら、日野原イズムを真似ぶ→学ぶプロセスを続けている。長年ご指導くださった先生の恩に報いるためにも、今後私ができることは何か、私の役割とは、使命とは？

運命の文字に含まれる意味は、受動的に運ばれる命でもあり能動的に自身が運ぶ命でもある。一世紀あまる日野原先生の人生の生き様、あなたはどのように考えられるだろうか？



（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）

http://www.jctv.ne.jp/column/bandou/201708.html